

手話の名前の付け方

What's in a name?

さがら けいこ
相良 啓子

民博 先端人類科学研究部

わたしには両親からもらった名前のほかに、ろう社会で使われる手話の名前がある。個人個人をあらわす手話の名前を「サインネーム」という。自分のサインネームを初めて見たときは、何を意味する表現なのか分からず、「その手話何？」とろうの友人に訪ねたものだ。ろう社会では、知らないあいだに中途失聴のわたしにもサインネームが作られていて、驚いた。

サインネームは、世界中のろう社会で使用されている。日常的な場面はもとより国際会議の場などでも、自己紹介の際には、「サインネームありますか？ どんな表現？」というやりとりがよくおこなわれる。それは、国境に関係なく存在するろう社会共通の文化とも言える。

では、サインネームはどのように作られるのだろうか？ 一般的には、見た目の特徴やしぐさから作られたり、その人が幼いころから好きだったことがとり込まれることが多い。例えば、髪の毛の長い人には長髪をあらわすサインネームが、幼いころからマンガが大好きでいつもマンガばかり読んでいた人の場合には、「マンガ」の手話がそのままその人をあらわすサインネームになったりする。

サインネームの名付け方には国によって異なる特徴もある。例えばアメリカでは、「David」なら「D」になるなど、イニシャルを使ったサインネームがかなり多いことが知られているが、日本ではイニシャルを使ったサインネームはあまり見られない。

日本では、姓の漢字をあらわした手形をそのまま使



原さんのサインネームは、同音語である「腹」から付けられ、お腹に手をあてる表現であらわされる

う場合が多く、例えば、「田中」という名前の場合は、漢字の「田」と「中」をあらわす手形をそのまま使う。また、同音語をとり入れて表現する場合も多い。「佐藤さん」なら「砂糖」、 「原さん」なら「腹」という同音語の表現がそのまま名前の手話になったりもする。ほかにも、日本手話の名前の表現には、歴史上の人物の特徴からくるものも存在する。「加藤」は「加藤清正」の槍の表現、「佐々木」は「佐々木小次郎」の背中に差した刀の表現、「斎藤」なら斎藤道三のチョビビゲの表現が、それぞれが名前の手話として今でも使用されている。

名前にまつわる手話とえば、面白い話がある。アルゼンチン手話の教詞「7」から「19」までは、ろう学校の寄宿舎に置かれてあるベッドの番号とそのベッドを利用していたろう学生のサインネームとの関係が深いという。例えば、「7」の手話表現は、「7」番のベッドに寝ていたろう学生のサインネームをとって作られたというのだ。そのため、アルゼンチン手話の数の表現は、「数」とは関連しない独特の表現の組み合わせになった。関連して、イギリスでは、逆にろう学校の教室でいつも3番のいすに座っていたろう生徒にイギリス手話「3」のサインネームを付けたという話もある。サインネームと数の関係もまた興味深いものである。